「ヤマトオオフツ」 ―多数派へ集まる禍

## フツ科

危険度:★★★★★

生息数:★★★★☆

## 生態

る点である。ヤマトオオフツは人間の脳内か ある。このヤマトオオフツの非常に面白い点 が摂取するのは善悪の判断に関する脳で があげられるが、この禍も例外ではない。 食べるのである。私はこれを「学習」と呼ん の欠損部分を予想し、自分も同じ部位を 間を見つけると、その行動原理からその脳 ら他の人間を観察し、他の個体が憑いた人 ツに憑かれた人間の脳」を参考にして決め は、この摂取する部分を「他のヤマトオオフ あることには間違いがない。ヤマトオオフツ はあるが、人間という種にとっての脅威で なく、シナプスの繋がりが損なわれるだけで 食べるといっても物理的に欠損することは の特徴として人間の脳を食べて成長する点 憑いた人間の脳で過ごす禍。フツ科の共通 身体のほとんどが消化器官であり、一生を

く分かっていない。でいる。なぜこのような行動を取るのかはよ

これ以上無い作戦と言えるだろう。 とれい上無い作戦と言えるだろう。 これ以上無い作戦として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をまたもう一つの特徴として、上記の生態をより対象をはいる。

## 解説

考えているか?」というものに置き換えてしきたいに、他人と寄りそい、また違いを認めない。それを欠損させられるという状態が続く。「何が善・悪なのかにし、他人と寄りそい、また違いを認めかにし、他人と寄りそい、また違いを認めかにし、他人と寄りそい、また違いを認めかにし、他人と寄りそい、また違いを認めかにし、他人と寄りそい、また違いを認めかにし、他人と寄りそい、また違いを認めかにし、他人と寄りそい、また違いを認める。それを欠損させられるとどのようなかにし、他人と寄りそい、また違いを認めるが、音をはいるか、 するという状態が続く。「何が善・悪なのに置き換えてした。

也こその成長の早さも関系する。最切こまヤマトオオフツの危険度には上記の問題のくなってしまうのである。の不禍な人間関係には一生たどり着けなあう。よって他人との違いを認め合うなどまう。よって他人との違いを認め合うなど

つかない状態になっている場合が多い。一度憑かれると治療が難しく、取り返しのそれだけでほぼ成体の大きさへと成長する。悪判断の基準となる思考回路を摂取し、悪判断の基準となる思考回路を摂取し、悪やマトオオフツの危険度には上記の問題の

## 対処法

ま常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難 非常に危険な禍で成長も早く、治療も難

